

西日本新聞

発行所

◎ 西日本新聞社

福岡市中央区天神一丁目
4番1号(〒810-8721)

◎西日本新聞社 2005年

1月9日
(日曜日)

佐賀

佐賀総局 0952(26)7181
本社代表 092(711)5555
社会部 5222 地域報道センター
運動部 5230 5225

紙面の問い合わせ

読者室 092(711)5331
平日10～18時 土曜～14時
(日・祝日休み)

購読・配達のご案内
0120-44-0120(7～21時)

ホームページ
<http://www.nishinippon.co.jp/>



■失敗作のはずが

「実はこれ、失敗作なんです」。唐津市にある日本建設技術の社長、原裕(五五)は、苦笑いを浮かべながら話した。

原が手にした「石」には無数の穴が開いていた。軽石のように見える。だが、この「石」こそ、質量の一・三倍もの水を吸うガラスリサイクル材「ミラクルソル」。「奇跡の土」と名付けられた新しい素材だ。

「一九九五年六月、原は失敗作は工場の裏庭に次

ラス瓶を再生させる事業に取り組んだ。土木工

「奇跡の土」世界に発信

進 化

うか」と、自問自答を繰り返した。

■新たな収入源に

一九九七年八月、原は唐津市北波多の農道に立っていた。ハギなどの植物の種子と培養土に、この「失敗作」を混ぜ合わせ

て、農道の斜面にまいた。四十日後、ハギは高さ約六十センチに成長した。こ

々と捨てられた。最終的に「軽い土」はできたが、原は膨大な失敗作の行方が気になった。

「何かに使えないなら

の土がもつ抜群の吸水力と保水力が、岩盤斜面の緑化を実現させた。

「常識を打ち破った」と原は胸を張った。土木

業界では、岩盤斜面の緑化は「不可能」と思われてきた。土や植物を表面に張り付けても、水が少なかったため、一、二年で植物が枯れるケースがほとんどだったからだ。

「失敗作」は「ミラクルソル」として注目を集める。やがて、日本建設技術は、この手法をミラクルソル工法と呼んで、「専売

■有明海再生にも

「奇跡の土」は、川や海の浄化の期待も抱いながら、新市場を切り開こうとしている。



廃ガラスを再生したミラクルソルを手にする日本建設技術社長の原裕

原はミラクルソルの活用法として水質浄化に着目した。二〇〇〇年から翌年にかけて、ノリが壊滅的な被害を受けた有明海の異変が起きたことがきっかけだった。

「地元に住む者として何とかしたい。そのための新技術」と、原は言い切る。ミラクルソルの細かい穴に微生物を生息させ、ろ過材として使うことを考えた。佐賀大の教授らとともに農水省と交

渉を重ねた結果、タイラ(敬称略)